令和２年度（２０２０年度）　年度当初にあたって

新しい年度が始まりました。保護者の皆様，関係者の皆様，お元気でしょうか。コロナ禍の渦中，直接お顔を見ながらご挨拶することもかなわず，子どもたちの元気な姿を見ることもできない，異例の学期始めです。この文章を北京で読んでいる方，日本各地で読んでいる方，様々だと存じますが，皆様どうかお子様の力強い支えになってください。学校で友達と話したりふざけ合ったり，喧嘩したり仲直りしたり…，という日常から離れざるを得ない子どもたちにとって，身近な大人の「どっしりと構える姿」や「どんな時も自然に溢れる笑顔」は大きな力となります。私たち職員も，こんな時だからこそ「チーム日本人学校」の一員であることを強く意識し，謙虚に着実に，笑顔で子どもたちを支えようと思います。１年間，どうぞよろしくお願いします。

子どもたちが登校しての学校再開は，本日現在，かないませんでした。明後日２６日の入学式も在宅のままでの実施です。子どもたちと教師が，直接顔を合わせながら進める教室での授業に勝る学習はありません。友達の考えを聞いて新しい発見をしたり，つまずきを教師の的確な支援や友達のアドバイスで乗り越えたり，学級のみんなで一緒に「分かった」「できた」と感動を共にする。様々な個性を発揮する，多くの子どもたちが共に学ぶ場，これこそが学校のよさであり，どんなに優秀な家庭教師にも，有名学習塾にも真似のできない，唯一無二の強みです。校長として，在宅での学習が今後長期化することを強く懸念する理由です。

しかし，子どもたちにとって，今日から始まる新学年は一生に一度きり。二度と取り返すことができない大切な大切な日々です。在宅での学習をいかに充実させるか。困難なこの命題を前に，昨年度末から本校２０人の教師は，一生懸命知恵を絞って試行錯誤してきました。「Ｗｅｂで子どもたちと教師とが双方向でやりとりをしながら進める学習」を創り上げる。当初の予想より，ずいぶんと課題が多く，準備も大変なことが分かりました。以下，準備を進める中で出てきた課題の一部です。

- 教室であれば，大きな資料を黒板に貼って，それを全員で見ながら話し合う，という活動も，Ｗｅｂで行うためには，その資料を画像データとして取り込んで，見せたい部分を加工して…という準備がいります。
- 著作権法の関係で，複写がままならない，という壁も。教師と子どもとが同じ教科書を手元に持っている前提で進めることは，分かっていても，子どもたちに教師の指示が伝わるかが不安です。
- 多くの子どもたちが集まる教室では，１つの学習課題に対して，様々な考えが出されます。時には教師が予想もしないような考えも。これらが授業を活性化させ，子ども同士の「学び合い」や教師の新たな発見が「学習の深化」につながります。Ｗｅｂ授業では「手を上げる」という機能があるのですが，教室のような自由闊達な意見交換はできません。
- また，教室であれば「子どもの表情」や「活動状況」や「つぶやき」から，指示が通っている（通っていない），理解している（理解が十分でない），楽しそうに取り組んでいる（進んで取り組んでいない）などを教師は瞬時につかんでフィードバック，新たな指示をしたり，支援をしたり，一旦活動を止めて集中を促したり…と，「あの手この手」を駆使して授業を進めます。Ｗｅｂ学習では，子どもたちの微妙な表情がつかめない。最も難しいのがこのことでしょうか。
- 小学部低学年の子どもたちは，パソコン操作を１人でできないかもしれない。保護者の支援をお願いするべきか。
- 各教科ごとに難しさが違う。例えば英語科では，子ども同士で会話練習をすることが難しい。音楽科では，互いの歌声を聞き合ってハーモニーをつくることが困難である…等々。

授業準備を進めながら，何度もミーティングを重ねました。代表の先生が授業を行い，他の先生たちが「子ども役」になって学習し，「画面の問題が見にくい」「他の人の発言が聞き取りにくいから『チャット機能』を使った方がよい」「せっかく『手を上げる』で発表したいことをアピールしても先生に伝わりにくい」など，授業を受ける子どもの立場で考えました。また，互いの授業を見合って改善点を指摘し合うこともしました。

さあ，いよいよＷｅｂでの授業が始まります。保護者の皆様，お子様の学習の様子を是非学校にお伝えください。楽しそうに取り組んでいますか？分かりやすいですか？集中力は続きましたか？簡単すぎ（難しすぎ）ではないですか？

日々状況は変化しています。この先どのような対応が求められても，学校と家庭とが，子どもを真ん中に置いて，しっかりと手を携え，より良い学習の創造を続けましょう。１年間どうぞよろしくお願いします。校長栗本和明